

「今福線」__新たな活動開始

和田 浩

1. はじめに

平成 22 年に今福線研究分科会（以下、「分科会」と称す）の活動が始まり本年で 7 年目を迎えた。分科会の活動は、遺構の現地調査や地元の方々との交流から始まり今福線マップの作成をきっかけに、久保田章市浜田市長を訪問したことで「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」（以下、「シンポジウム」と称す）の開催に共催として参画することとなり、「シンポジウム」は平成 27 年 8 月 8、9 日に盛会のうちに終了することができた。

「シンポジウム」終了後は、建設業関連や各種団体による現地見学会や講演会があったり、旅行会社によるツアー企画として今福線や沿線を含めた見学会等が継続して行われている状況である。

「シンポジウム」の開催に向けて設立された「シンポジウム実行委員会」（以下、「実行委員会」と称す）の役割は、平成 27 年度をもって解散することとなった。しかし、今福線の活動は「シンポジウム」をきっかけに始まったばかりであり、地元を巻き込んだその活動は、益々広がる様相を呈しており、このまま終わらせてしまうわけにはいかない。

本報告は、「実行委員会」に代わる新たな組織の設立や今年度の活動状況等について行うものである。

2. 実行委員会及び新たな組織による主な活動内容（H26 年～H28 年）

昨年度の研究報告においても実行委員会を主体とした活動内容について記載を行った。しかし、本報告文に記載できる活動期間が該当年度の 12 月までの活動内容となり、実行委員会全体の記載ができていなかった。そのため、今年度の活動や予定も含め改めて、表 2.1 に示すように整理を行った。

昨年度の研究報告作成後、実行委員会で鉄道遺構の保存と活用方法を学ぶことを目的として、先進地である奈良の大仏鉄道（廃線）と五新線（未成線）へ遺構の視察と活動状況等について関係者への聞き取りに伺った。



写真 2.1 大仏鉄道の難波会長



写真 2.2NP0 法人五新線再生推進会議

表 2.1 実行委員会の活動経緯と内容一覧表

年月日	実行委員会等における主な活動内容	備 考
H26年 9月30日	「第1回実行委員会」の開催；広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会の設立 1. シンポジウム開催の目的と実行委員会立ち上げの主旨説明 2. 実行委員会規約の制定、役員の選任、 3. 平成26年度活動計画（案）について	
12月2日	「第2回実行委員会」の開催 1. 報告事項；平成27年度当初予算請求の状況 2. 平成26年度活動計画；具体的な取り組み内容の決定、3. 旅行会社によるバスツアー開催の依頼	
H27年 1月～11月	山陰中央新報への連載；1/16～11/13までの計19回	
H27年 2月7日	「第3回実行委員会」の開催（「わが町自慢大会」を同時開催） 1. 報告事項；平成27年度当初予算市長査定の状況、 2. 平成26年度活動計画	
3月11日	「第4回実行委員会」の開催 1. 報告事項；今福線に関する交流イベント、地元新聞への記事掲載 2. シンポジウムの実施計画（案）、 3. チラシ原稿（案）；チラシ5,000部、ポスター300部、 4. 新聞連載	
6月18日	「第5回実行委員会」の開催 1. 報告事項；シンポジウム申込み状況、各種メディア取材等 2. シンポジウムの実施計画（案）、 3. 廃線・未成線活用の取り組み事例	
7月12日	・「プレ大会」の開催；実行委員会、自治会によるエクスカーションの予行演習	
7月24日	「第6回実行委員会」の開催 1. 報告事項；申込み状況、エクスカーションの定員増員と追加開催等、 2. エクスカーションでの役割分担の確認	
8月8日 8月9日	「シンポジウム」の開催； 名称；「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」 8/8；講演、パネルディスカッション、懇親会 191名 8/9；エクスカーション 88名	
10月1日	「第7回実行委員会」の開催 1. 報告事項；シンポジウムのまとめと総括、今後のツアーと見学会 2. 国交付金（地方創生先行型）にかかる追加事業の説明、 3. 今後の活動について；何をするか、方向性、意見交換会	
H28年 2月6日 2月7日	「幻の大仏鉄道と五新線」への現地視察 実行委員会のメンバー11名（有志）で鉄道遺構の保存と活用方法を学ぶことを目的として、遺構の視察と各関係者への活動内容等の聞き取りを行った。 2/6；大仏鉄道（廃線）視察；大仏鉄道研究会 難波会長（元町長）、木津川市観光商工課の辻課長と西谷主事により案内 2/7；五新線（未成線）視察；NPO法人五新線再生推進会議 村井事務局長による現地案内、新名理事長他数名の理事による意見交換	
3月14日	「今福線の将来を考える会（仮称）準備会」の開催； 広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会の後継組織の設立 1. 報告事項；これまでの成果報告（シンポジウム開催、今福線を利用したイベント等） 2. 広浜鉄道今福線を活かす課題と方向性 3. 後継組織の必要性	
4月27日	「今福線の将来を考える会（仮称）第2回準備会」の開催 広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会の後継組織の設立（案）の提示 1. 後継組織の設立（案）；目的、名称、会員構成、活動組織、設立時期	
7月23日 7月24日	「五新線」視察団との交流 NPO法人五新線再生推進会議の方々による今福線遺構の視察と意見交換会 7/23；今福線遺構の現地視察 14名 7/24；浜田市役所にて新名理事長他7名の理事との意見交換 16名	
7月26日	「今福線を活かす連絡協議会」の設立 広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会の後継組織として設立、浜田市長である久保田市長からの挨拶の下、連絡協議会が発足した 1. 連絡協議会の会則；目的、名称、事業、組織（会員構成）、事務局等の決定 2. 役員の選任；自治会を中心として選出 3. H28年度活動計画（案）；各団体が予定している活動やツアー等の案内	
8月24日 8月25日	NPO法人ジェイヘリテージとの現地視察 内閣府地域活性化伝道師の派遣制度を利用した、NPO法人ジェイヘリテージによる地域活動 8/24；今福線及び沿線観光資源の現地視察（全部で19箇所視察） 10名 8/25；NPO法人ジェイヘリテージによる指導・助言、意見交換 16名	
10月10日	「今福線ワンダーマッピング（地域の資源探し）」の開催 連絡協議会主催でNPO法人ジェイヘリテージによる、地域に眠る資源探しで地域活動に活かす 1. 佐野、雲城、今福の3地区の資源探し 21名	
10月12日	「今福線の将来を考える会（仮称）第2回準備会」の開催 広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会の後継組織の設立（案）の提示 1. 後継組織の設立（案）；目的、名称、会員構成、活動組織、設立時期	
12月3日 12月4日	「広浜鉄道今福線 モニターツアー」の開催 NPO法人ジェイヘリテージ監修による、県外マニアを対象として今福線沿線のモニターツアーの実施 12/3；JR広島駅出発、暁が浦～下府駅～有福分館～美又温泉他視察 12/4；丸原地区、おろち泣き橋、鉄架の道他視察	
H29年 1or2月	【予定】「今福線を活かす連絡協議会」の開催 1. 活動報告；ワンダーマッピングやモニターツアー、各種イベント等の報告 2. 「全国未成線サミット」への参加 3. 実働組織についての意見交換	
3月4日 3月5日	【予定】「全国未成線サミット」への参加 国土交通省「国土形成フォーラム」の一環として、国土交通省及び五條市が主催し、NPO法人五新線再生推進会議が協賛するサミットへの参加 地方創生及び活性化を目的として未成線活用に関しての意見や情報を交換する	

3.「今福線を活かす連絡協議会」の設立

「実行委員会」に代わる組織の立ち上げについて、平成 27 年の年度末より「今福線の将来を考える準備会」として討議を重ね、ついに平成 28 年 7 月 26 日に新組織である「今福線を活かす連絡協議会」の設立を行うことができた。当日は、久保田 浜田市長より「シンポジウム」が盛会裏に終了したお礼をいただくとともに、今後の地域活性化に向けた活動についての協力依頼の要請をいただいた。

新組織は今福線沿線の自治会を主体として構成され、概要は下記の通りである。

- 名 称；「今福線を活かす連絡協議会」（以下、「連絡協議会」と称す）
- 目 的；平成 27 年度にシンポジウムの実施を目的に組織された広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会の発展的後継組織として、会員が行う今福線を活かしたイベント等の活動の情報を共有するとともに、会員同士や他団体と連携することにより、会員の活動の向上及び会員相互の懇親を図ることを目的とする。

事業（活動内容）；

- ①会員が行う今福線に関するイベント等の活動の情報共有
- ②会員が連携した今福線に関する活動
- ③他団体等と連携した今福線に関する活動
- ④今福線に関する勉強会等
- ⑤その他必要な事項

参加者（会員）；

- ①今福線沿線の自治会；上府自治会、宇野自治会、宇津井自治会、佐野自治会、雲城まちづくり委員会、今福地区まちづくり推進委員会、今福公民館、丸原自治会、今市公民館
- ②浜田商工会議所
- ③島根県立大学、島根県立大学総合政策学部
- ④島根県技術士会、今福線研究分科会
- ⑤その他；有志
- ⑥浜田市；観光交流課（事務局）、金城支所、旭支所

現段階では「連絡協議会」が、直接活動を行うわけではなく今福線を活用した活動やイベント等を実施する実働組織に対して、アドバイスやサポートを行う機関として相互連携を計っていくこととなる。

また、実働組織には旅行会社や観光事業者及び各種団体等と連携し、今後次に示すような事項について検討を行う必要がある。

【活動の例】

- ①受け入れ窓口、情報発信
- ②鉄道遺構等の観光資源の調査研究
- ③旅行商品づくり、旅行会社への営業
- ④案内人の人材育成
- ⑤ツアー誘致、イベント実施 など

4. NPO 法人 J-heritage（ジェイヘリテージ）による活動

今年度、浜田市は広浜鉄道今福線を観光資源として発信し交流人口を増加させる取り組みの中で、情報発信力の高いマニアを対象に今福線及び周辺の地域資源を体験するモニターツアーの実施を目的として、業務発注を行った。

業務は、産業遺産を専門とする「NPO 法人 J-heritage（以下、「ジェイヘリテージ」と称す）が受託した。

「ジェイヘリテージ」は、2009年12月25日に全国の廃墟マニアが集まり、産業遺産を記録・見学し、ヘリテージツーリズムを普及させることを目的に立ち上げられた。主な事業は全国の産業遺産を巡る旅「ヘリテージツーリズムの企画・運営」「産業遺産のアーカイブ」「保存・活用団体のネットワーク構築」「価値の変換」となっている。

ここに、ヘリテージツーリズムとはヘリテージすなわち遺産（文化遺産や自然遺産）を観光資源として利用することであり、産業遺産に旅人が訪れ、地域ガイドと交流する旅行・観光をヘリテージツーリズムと定義されている。

「ジェイヘリテージ」の詳細な活動等については、ホームページ（<http://www.j-heritage.org/>）に詳細に紹介されているのでご覧いただきたい。「ジェイヘリテージ」によるモニターツアーは以下の2回が行われた。

（1）今福線ワンダーマッピング（地域の資源探し）の開催

地域に眠っているワンダースポットを参加者が探し出す（地元の良い所に気付く）、新感覚のまちあるきワークショップである。

開催日；平成28年10月10日（祝日） 13:15～17:15

場所；佐野、今福、雲城の3地区を調査（3チーム）

参加者；各地区7名（地元案内人を含む）、合計21名参加

講師；ジェイヘリテージ（前畑洋平・温子氏）

内容；予め地元案内人や講師が発見したワンダースポット（お宝）を参加者が探し出し写真を撮影する。決められた謎の場所で全員で記念写真を撮る。また新たなワンダースポットを5つ以上探し、名前を付ける。

最後に各チーム（ここでは3地区）が見つけたワンダースポット（お宝とした理由を含め）を発表する。

参加した感想；私は佐野地区の担当となった。ワンダースポットは地元の方々にとっては何でもない物事であっても、私や地区外の人にとっては珍しい物ばかりであった。また、参加した地元の方々にとっても新しい発見がたくさんあったようだ。まさにお宝はどこにでも眠っている 視点を変えればお宝になり得るという事を改めて感じた活動であった。

〔お題となったワンダースポット〕



写真 4.1 八旗山八幡宮内の石見焼



写真 4.2 不動明王前の祠



写真 4.3 浜田道

〔新たなワンダースポット〕



写真 4.4 石畳道(旧芸州街道跡)



写真 4.5 コンクリート川による堀



写真 4.6 不動明王の滝

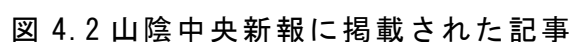


写真 4.7 発表資料の作成中



写真 4.8 発表風景

ワンダーマッピングを行っている様子が山陰中央新報に掲載された。



(2) 今福線モニターツアーの開催

県外の産業遺産マニアの方々を招き（JR 広島駅より出発）、独自の視点で今福線沿線の評価と発信を目的としてツアーを行うものである。

開催日；平成28年12月3日（土）・4日（日）

行程；12月3日 JR 広島駅～石見豊ヶ浦～下府駅～下府橋梁跡～有福分館～美又温泉～森の公民館

12月4日 森の公民館～木田地区暮らしの学校～丸原地区～おろち泣き橋～鉄楽の道～新線旧線交差点～石見公民館佐野分館～JR 広島駅

参加者；県外の産業遺産マニア、合計23名参加

監修；ジェイヘリテージ（前畑洋平・温子氏）

私は参加できなかったが、モニターツアーの様子が山陰中央新報に掲載され、マニアたちが楽しまれた状況が伺われる。今後どんな情報発信があるのか、またどんな観光コースが提示されるのか楽しみである。

2016年(平成28年) 12月4日(日曜日)
地 域 24 ☆

鉄道遺構 ロマン感じて

今福線モニターツアー

浜田

浜田、広島両市を結ぶ鉄道の道として計画され、建設段階で中止された広浜鉄道。今福線の遺構を巡るモニターツアーが3日、浜田市内で2日間の日程で始まった。全国から産業遺産の愛

好者ら23人が参加し、橋脚群やトンネルなどを見学した。ツアーは、今福線と周辺の地域資源を絡め、観光交流人口の増加につなげようと浜田市が主催し、産業遺産の記録などを行うNPO法人・J-heri

石見

西部本社 TEL0855(22)0109 益田総局 TEL0855(22)1800 大田支局 TEL0854(84)9055 江津支局 TEL0855(22)347 川本支局 TEL0855(72)010 津和野支局 TEL0856(72)1678 島南通信部 TEL0856(95)1330



5連アーチ橋を見学するモニターツアーの参加者

約15分の橋脚群をはじめ、県道に使われている5連アーチ橋や土木学会選奨土木遺産の4連アーチ橋などを見て、熱心に写真撮影した。

大阪市在住の旅行ライター、金原みわさん(30)は「これまで今福線が存在を知らなかったが、日本の新たな魅力を再発見できた」と興味深げに眺めた。

同NPOの前畑洋平代表(38)は「地域のことを合わせて発信すれば、人を呼び込む観光資源になる」と太鼓判を押した。

4日も遺構などを巡り、市は、参加者の意見を踏まえ、16年度中に今福線を含めた観光コースをつくる。(白築昂)

図 4.3 山陰中央新報に掲載された記事

5. 分科会活動

今年度より、遺構の土木的見地から付加価値を加えていくことを活動の一つとして取り上げ、構造物の形状寸法やコンクリートの状態について調査を行い、データとして記録を残していくこととなった。今年対象となった遺構は、選奨土木遺産の銘板が貼付されている4連アーチ橋と今福第四トンネルの2箇所である。スタッフやテープによる寸法の実測や非破壊試験による鉄筋の有無（RCレーダー）やコンクリート表面の反発強度（シュミットハンマー）による圧縮強度の測定を行った。

また今年の現地調査には、「連絡協議会」からの参加者として協議会会長の石本さんと事務局である浜田市観光交流課より小寺さんの参加をいただいた。お二人には我々土木屋が現場でどんな作業をしているのか（夢中度合）、少しわかってもらえたのではないだろうか。

調査日；平成28年11月5日（土）、6日（日）

参加者；村上、嘉藤、河野、桑野、佐々木、富田、岸根、伊藤、渡辺、川神、木村、服部、青木、石本（佐野自治会）、小寺（市役所）、和田 合計16名

日程；11月5日 ・4連アーチ橋と今福第四トンネルの計測

・鉄道の道から今福への旧線の現状調査

・新たな施設（バイオトイレや案内看板）の視察

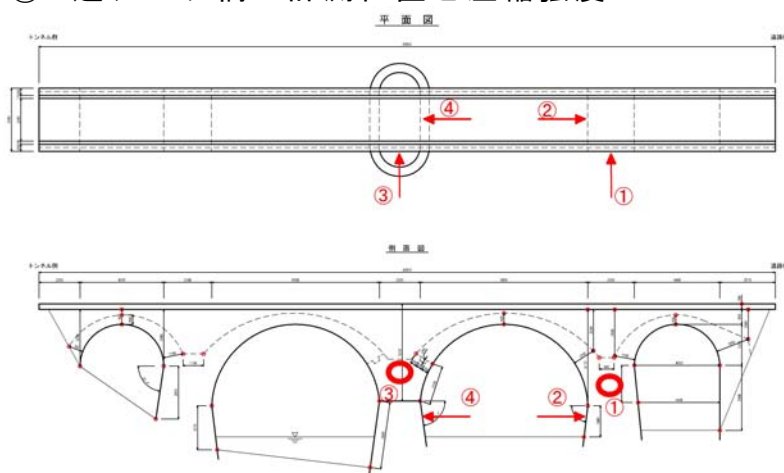
11月6日 ・有福第四トンネルの現地調査

本報告では、4連アーチ橋と今福第四トンネルの計測について記載する。

(1) 調査結果

私の調査担当は、4連アーチ橋でのシュミットハンマーによる反発強度の計測と今福第四トンネルの断面形状の計測を行った。

①4連アーチ橋の計測位置と圧縮強度



計測状況

○及び番号位置で計測を行った

図 5.1 4連アーチ橋の計測位置

②④ (橋軸方向) $\sigma_{ca} = 41.7 \text{ N/mm}^2 \sim 50.6 \text{ N/mm}^2$

また、参考値として建設当時の制定型（S5 年 7 月制定）の 2 号型断面（直線形）の寸法を破線寸法線による数値で示している。このことから現地盤より約 0.5m 上がレール面上（R.L）であると推測される。

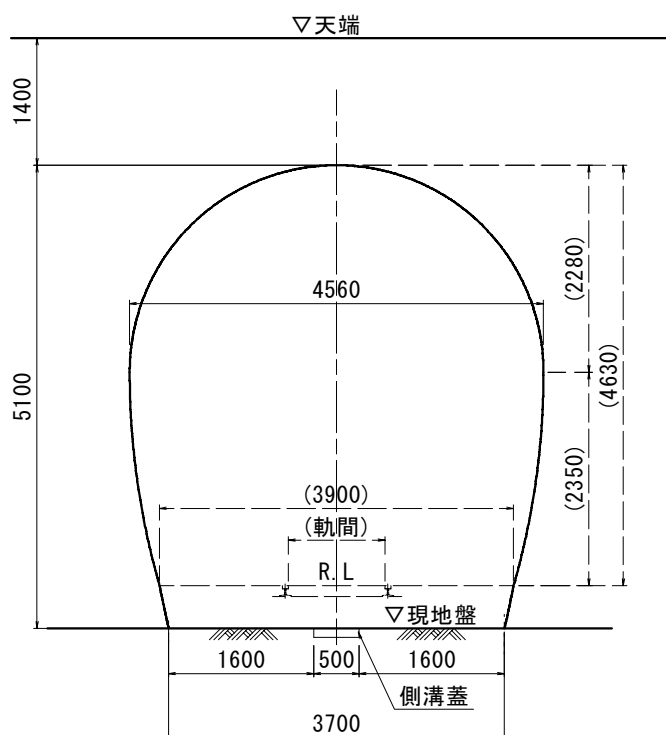
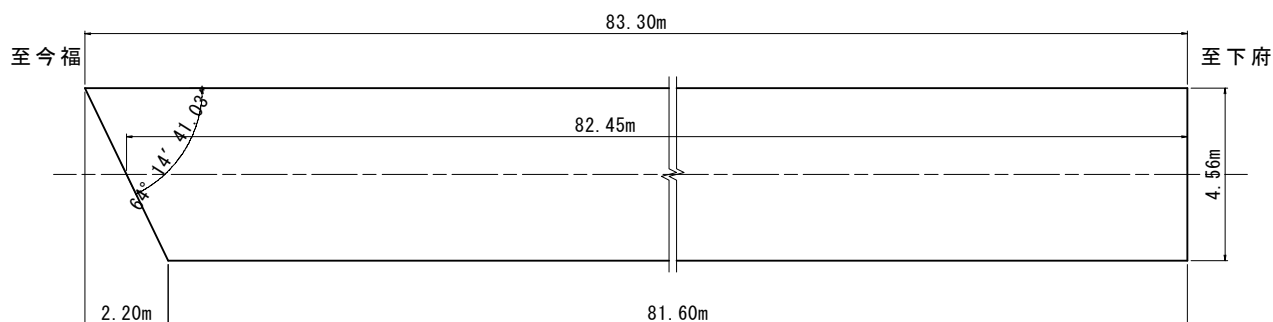


図 5.2 今福第四トンネル標準断面図



トンネル長はトンネル中心位置で約 82.5m、平面線形は直線で平面形状は今福側の坑口で斜角約 65° となっていることがわかった。

6. 新たな活動開始に向けて

今年度より新たな組織である「連絡協議会」の発足、「ジェイヘリテージ」による企画や事業等の提案、他の未成線との繋がり等により、今福線及びその沿線を巻き込んだ新たな活動が始まろうとしている。また、市役所により待望のトイレ（バイオトイレ）が設置され、沿線自治会やまちづくり推進委員会によるその周辺整備（東屋設置や草刈り）等、益々活動が活発化していくものと思われる。我々分科会としては、「連絡協議会」へのサポートやアドバイザーとして今後も関わって行くこととなる。

以下に昨年度の報告文とも重複する部分もあるが、分科会としての活動を踏まえた課題の整理とその対策について記載する。

6.1 遺構の資料整理と研究成果の整理

- ①**既往資料と研究成果の整理**；これまでの分科会活動や先人たちの研究成果をとりまとめ資料や情報として提供をする。
- ②**技術的な付加価値の整理**；遺構（橋梁・トンネル）のデータ化を行い技術資料として整理する。

6.2 マップの更新と周辺施設等の追加

- ①**変化に伴う更新と技術的な特徴の追記**；トイレの設置など周辺施設に大きな変化があった場合など写真による追加や更新を定期的に行いマップの充実化を図る。
- ②**観光施設やルートの追記**；今福線沿線や周辺の地域資源（ワンダーマッピングでの題材を参考）を追加する。

6.3 遺構の保存・維持管理

新たな活動や多方面からの情報発信によりツアー客や個人客などが訪れる機会が増加していくものと思われる。

旧線の遺構は建設後 80 年以上が経過し今後益々老朽化が進行していく。現在、県道や市道として利用されている遺構を除いては、車両などによる荷重の影響は直接ないものの、経年劣化による健全性の低下は否めない。

利活用することが遺構の保存や長寿命化に繋がるが、使用可能な範囲での補修方法など経済的な問題が大きな壁として立ちはだかることが予想される。その対応として利用度の高低による維持管理の方法など適切な管理計画を立案することが重要となる。

7. おわりに

「今福線を活かす連絡協議会」の発足により新たな活動の展開に伴い、今後も分科会として、また、個人的にも故郷のお宝を守るという意識で積極的に活動に携わって行きたいと思う。

以上